One-off sessions

摂食嚥下若手企画ミニシンポジウム | オンデマンド動画

自分の将来をどう決める？ ～新規出発した診療科の実情～

座長:大岡 貴史(明海大学歯学部機能保存回復学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野)、飯田 貴俊(神奈川歯科大学　全身管理医歯学講座　全身管理高齢者歯科学)

[MSY3-OP] 挨拶

[MSY3-1] 医科から求められる“歯科医師”とは？～歯科がリーダーシップをとるための挑戦～

○大橋 伸英[1]（1. 横浜市立大学附属病院 歯科・口腔外科・矯正歯科／周術期管理センター／リハビリテーション部）

[MSY3-2] フリーランスとして働き、北海道の大地を駆ける！

○濱田 浩美[1]（1. 幌西歯科）

[MSY3-3] 卒業−18年−現在−18年−還暦

○尾崎 由衛[1]（1. 歯科医院 丸尾崎）

[MSY3-CL] 総括

Sun. Nov 8, 2020

A会場

摂食嚥下若手企画ミニシンポジウム | ライブ

【質疑応答・ディスカッション】自分の将来をどう決める？　～新規出発した診療科の実情～

座長:大岡 貴史(明海大学歯学部機能保存回復学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野)、飯田 貴俊(神奈川歯科大学　全身管理医歯学講座　全身管理高齢者歯科学)

3:20 PM - 3:30 PM A会場

[MSY3-OP] 挨拶

[MSY3-1] 医科から求められる“歯科医師”とは？～歯科がリーダーシップをとるための挑戦～

○大橋 伸英[1]（1. 横浜市立大学附属病院 歯科・口腔外科・矯正歯科／周術期管理センター／リハビリテーション部）

[MSY3-2] フリーランスとして働き、北海道の大地を駆ける！

○濱田 浩美[1]（1. 幌西歯科）

[MSY3-3] 卒業−18年−現在−18年−還暦

○尾崎 由衛[1]（1. 歯科医院 丸尾崎）

[MSY3-CL] 総括

©Japanese Society of Gerodontology

摂食嚥下若手企画ミニシンポジウム | オンデマンド動画

自分の将来をどう決める？ ～新規出発した診療科の実情～

座長:大岡 貴史(明海大学歯学部機能保存回復学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野)、飯田 貴俊(神奈川歯科大学　全身管理医歯学講座　全身管理高齢者歯科学)

【大岡 貴史先生略歴】

2003年3月：
北海道大学歯学部 卒業
2007年3月：
昭和大学大学院歯学研究科 修了　博士（歯学）取得
4月：
昭和大学歯学部 助教　口腔衛生学
2010年4月：
University of Sydney Westmead Hospital Visiting Scholar
2011年4月：
昭和大学歯学部 講師　口腔衛生学
2015年4月：
明海大学歯学部 准教授　摂食嚥下リハビリテーション学分野
明海大学歯学部付属明海大学病院摂食嚥下科 科長
2018年8月：
明海大学歯学部 教授　摂食嚥下リハビリテーション学分野

【飯田 貴俊先生略歴】

2008年3月：
日本大学歯学部 卒業
2010年4月：
藤田保健衛生大学（現：藤田医科大学）
医学部リハビリテーション医学I講座　研究生
2012年6月：
Johns Hopkins University, School of Medicine, Department of Physical Medicine and Rehabilitation Research Fellow
2014年3月：
日本大学大学院歯学研究科　修了　博士（歯学）取得
4月：
日本大学歯学部付属病院摂食機能療法科　専修医
2015年3月：
神奈川歯科大学附属病院　全身管理高齢者歯科　診療科講師
2016年4月：
神奈川歯科大学大学院歯学研究科　全身管理医歯学講座　講師
2018年11月：
神奈川歯科大学附属病院　全身管理高齢者歯科　診療科准教授

[MSY3-OP] 挨拶

[MSY3-1]　医科から求められる“歯科医師”とは？～歯科がリーダーシップをとるための挑戦～

○大橋 伸英[1]（1. 横浜市立大学附属病院 歯科・口腔外科・矯正歯科／周術期管理センター／リハビリテーション部）

©Japanese Society of Gerodontology

[MSY3-2]　フリーランスとして働き、北海道の大地を駆ける！

○濱田 浩美[1]（1. 幌西歯科）

[MSY3-3]　卒業−18年−現在−18年−還暦

○尾崎 由衛[1]（1. 歯科医院 丸尾崎）

[MSY3-CL] 総括

©Japanese Society of Gerodontology

[MSY3-OP] 挨拶

[MSY3-1] 医科から求められる“歯科医師”とは？～歯科がリーダーシップをとるための挑戦～

○大橋 伸英[1]（1. 横浜市立大学附属病院 歯科・口腔外科・矯正歯科／周術期管理センター／リハビリテーション部）

【略歴】

2011年3月：
北海道大学歯学部　卒業
2011年4月：
横浜市立大学附属病院　歯科・口腔外科・矯正歯科　初期研修医
2013年4月：
横浜市立大学大学院医学研究科顎顔面口腔機能制御学　入学
2018年4月：
横浜市立大学附属病院　周術期管理センター　副センター長
2019年3月：
横浜市立大学大学院医学研究科顎顔面口腔機能制御学　卒業
2019年4月：
横浜市立大学附属病院　歯科・口腔外科・矯正歯科／周術期管理センター（専任）／　助教・副センター長
2020年4月：
横浜市立大学附属病院　歯科・口腔外科・矯正歯科／周術期管理センター（専任）／リハビリテーション部（兼任）　助教・副センター長

2016年度歯科医師臨床研修修了者アンケート調査によると，臨床研修を終了した歯科医師は10年後の働き方として，歯科診療所に勤務する半数以上が予想している。一方，歯科大学以外の大学附属病院や総合病院での勤務を予想する歯科医師は少数である。

医科歯科連携の重要性が昨今謳われるようになってきたが，医師や看護師などのメディカルスタッフとの連携を不得手とする歯科医師が多い。連携をうまく行うために必要な歯科医師のスキルはメディカルスタッフと双方向で対話できることである。また，医科的な全身評価の一部として口腔顎顔面領域の評価・アセスメントを行うことが歯科医師に求められ，歯科医師の医学知識の拡充が重要となってくる。今後，多数の基礎疾患を抱え，多剤内服している有病者に対し安全な歯科医療を提供するという社会的なニーズがさらに高まる中で，これからの若手の歯科医師は，医科とどのような連携が可能か，どのような新たな挑戦ができるかを考えなければならない時期に来ている。

今回，私は医科大学附属病院の中で2つの医科歯科連携に関する新規事業（周術期管理センターと摂食嚥下リハビリテーション部門）の立ち上げにかかわる機会を得た。医科大学附属病院や総合病院では，医師・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・社会福祉士・事務職などの専門性の高い多職種が勤務している。当院の周術期管理センターは，周術期にかかわるスタッフだけでなく入退院支援にかかわる医療スタッフとも密に連携していることが特徴である。一人の患者に対し周術期管理センタースタッフはそれぞれの専門職が互いに意思疎通を図り自己の専門領域を超えできることは積極的にカバーしながら協働するtransdiscipilinary teamとして動いている。現在の周術期管理センター運用までには時間を要したが，構想ができ

©Japanese Society of Gerodontology

た当初から歯科医師が運営の鍵を握っていた。また，摂食嚥下においては当院では摂食嚥下チームとして院内チーム活動を行うのではなく，診療科に類似した摂食嚥下リハビリテーション部門として2020年4月に新規に立ち上げた。
本講演では，周術期管理センター，摂食嚥下リハビリテーション部門の設立に至るまでの経緯・実情を述べる。今後の進路を模索し決めていく際に，この内容が若手歯科医師の新たな挑戦の糸口となれば幸いである。

[MSY3-2] フリーランスとして働き、北海道の大地を駆ける！

○濱田 浩美[1]（1. 幌西歯科）

【略歴】

2003年3月：
日本歯科大学歯学部　卒業
2008年3月：
北海道大学大学院歯学研究科博士課程口腔医学専攻修了　博士（歯学）取得
2008年4月：
財団法人北海道医療団　帯広第一病院　歯科口腔外科　医長
2009年4月：
昭和大学　口腔リハビリテーション科　助教（員外）
2011年4月：
北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学講座口腔顎顔面外科学教室　医員
昭和大学スペシャルニーズ口腔医学講座口腔リハビリテーション医学部門　兼任講師
2014年4月：
北海道大学大学院歯学研究科　口腔健康科学講座　高齢者歯科学教室　医員
2018年4月：
北海道大学病院客員臨床医師
2019年10月：
幌西歯科（こうさいしか）院長

現在に至る

私は2018年に長年勤務した北大高齢者歯科教室を退局し、実家の歯科医院を継承、昨年10月に名目上は一歯科医院の院長になった。しかし、大学を辞めた今でも、ほかの病院やクリニックで非常勤として働いていると言えば不良院長と思われるかもしれない。私自身も、この状況になってから「今、何しているの？」という質問にはしどろもどろに答えざるを得なかった。それをこの場で返上したいと思う。

私の働き方は、自分のクリニックで週3日ほど勤務（その他の日は自院は休診）し、週2日は病院歯科で高齢者を対象に、外来診療や嚥下造影検査などの嚥下機能評価、病棟へのミールラウンドを行い、週1回は他院から訪問診療に出向き嚥下内視鏡検査などを行い、大学病院でも診療し、月2回程度の歯科医師会の摂食嚥下外来、さらに月1回、摂食嚥下でお手伝いしているクリニックもあり、光栄なことに講演などもやらせていただいている。これはもうほぼ「フリーランス」である。なんだかかっこいい！と思うかもしれないが、上記の通り実際はかなり忙しい。でも、結構自由に、楽しくやらせてもらっている。

摂食嚥下を専門としてやってきて本当に良かったと思っている。そうでなければ今の自分は存在しないだろう。一般的には摂食嚥下を専門とするとどうしても活躍の場が大学病院に限られるように感じられるかもしれないが、決してそんなことはないということだ。大学を出てわかったのだが、摂食嚥下障害をきちんと診察できる

©Japanese Society of Gerodontology

歯科医師は意外と少なく、必要としている患者は本当に多いのだ。

訪問診療に行くためには拠点となるクリニックが不可欠である。私のクリニックは札幌市の中心部なので、訪問範囲は札幌市全体をほぼカバーできるが、北海道は広い。その広い北海道をカバーするために、私自身が動き、いろいろな場所のクリニックから訪問診療に出向くことで解決しようと思い、今の状況になった。自院はいずれ、一般歯科治療を全くしないで摂食嚥下のみ診察するクリニックにしたいと思っている。しかし、私一人でやれる範囲には限界がある。よって、仲間が必要なのだ。その仲間たちが全国のさまざまなところに拠点を構えることで、あそこにはあの先生がいるから大丈夫という安心が患者に生まれればいいと考えている。

私自身もまだまだ道半ばであるが、摂食嚥下を専門としている歯科医師は、もっともっと羽ばたいていけると、私は確信している。（ COI開示なし）

[MSY3-3] 卒業−18年−現在−18年−還暦

○尾崎 由衛[1] （1. 歯科医院 丸尾崎）

【略歴】

2002年：
広島大学歯学部歯学科　卒業
2006年：
広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 展開医科学講座 修了
2006年：
九州歯科大学 摂食機能リハビリテーション学分野 助手
2007年：
九州歯科大学 摂食機能リハビリテーション学分野 助教
2011年：
済生会八幡総合病院 歯科医長
2016年：
済生会八幡総合病院 歯科部長
2017年：
国立病院機構 西別府病院
2019年：
歯科医院 丸尾崎 開院

現在、私は日本を代表する温泉地である大分県別府市で開業し、主に歯科診療に従事しています。歯学部を卒業してからは大学院に進み、その後大学歯学部に５年間勤務した後、急性期病院に６年、慢性期病院に２年勤務し現在に至っております。回り道をしたのか、近道をしたのかわかりませんが、今、過去を振り返ってみるといろいろな経験をさせて戴いて来ました。そして、その時々の経験があったからこそ、今があると実感しています。その貴重な経験を指導してくださった方々やその時々のタイミングでチャンスをくれた方々、一緒に頑張った方々との出会いなくして現在はありません。
今現在の目標は、地域の歯科医師として地域の人々の生活の歯車として機能することであり、また同時に、地域医療のチームの中での歯車として役割をしっかりと果たしていくことです。今までの経験とこれからの経験を組み合わせながら現在いろいろと挑戦中です。

©Japanese Society of Gerodontology

[MSY3-CL] 総括

©Japanese Society of Gerodontology

摂食嚥下若手企画ミニシンポジウム | ライブ

【質疑応答・ディスカッション】自分の将来をどう決める？　～新規出発した診療科の実情～

座長:大岡 貴史(明海大学歯学部機能保存回復学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野)、飯田 貴俊(神奈川歯科大学　全身管理医歯学講座　全身管理高齢者歯科学)

Sun. Nov 8, 2020 3:20 PM - 3:30 PM A会場

【大岡 貴史先生略歴】

2003年3月：
北海道大学歯学部 卒業
2007年3月：
昭和大学大学院歯学研究科 修了　博士（歯学）取得
4月：
昭和大学歯学部 助教　口腔衛生学
2010年4月：
University of Sydney Westmead Hospital Visiting Scholar
2011年4月：
昭和大学歯学部 講師　口腔衛生学
2015年4月：
明海大学歯学部 准教授　摂食嚥下リハビリテーション学分野
明海大学歯学部付属明海大学病院摂食嚥下科 科長
2018年8月：
明海大学歯学部 教授　摂食嚥下リハビリテーション学分野

【飯田 貴俊先生略歴】

2008年3月：
日本大学歯学部 卒業
2010年4月：
藤田保健衛生大学（現：藤田医科大学）
医学部リハビリテーション医学I講座　研究生
2012年6月：
Johns Hopkins University, School of Medicine, Department of Physical Medicine and Rehabilitation Research Fellow
2014年3月：
日本大学大学院歯学研究科　修了　博士（歯学）取得
4月：
日本大学歯学部付属病院摂食機能療法科　専修医
2015年3月：
神奈川歯科大学附属病院　全身管理高齢者歯科　診療科講師
2016年4月：
神奈川歯科大学大学院歯学研究科　全身管理医歯学講座　講師
2018年11月：
神奈川歯科大学附属病院　全身管理高齢者歯科　診療科准教授

[MSY3-OP] 挨拶
[MSY3-1]　医科から求められる“歯科医師”とは？～歯科がリーダーシップをとるための挑戦～

©Japanese Society of Gerodontology

○大橋 伸英[1]（1. 横浜市立大学附属病院 歯科・口腔外科・矯正歯科／周術期管理センター／リハビリテーション部）

[MSY3-2] フリーランスとして働き、北海道の大地を駆ける！

○濱田 浩美[1]（1. 幌西歯科）

[MSY3-3] 卒業−18年−現在−18年−還暦

○尾崎 由衛[1]（1. 歯科医院 丸尾崎）

[MSY3-CL] 総括

©Japanese Society of Gerodontology

(Sun. Nov 8, 2020 3:20 PM - 3:30 PM A会場)

[MSY3-OP] 挨拶

(Sun. Nov 8, 2020 3:20 PM - 3:30 PM A会場)

[MSY3-1] 医科から求められる“歯科医師”とは？～歯科がリーダーシップをとるための挑戦～

○大橋 伸英[1]（1. 横浜市立大学附属病院 歯科・口腔外科・矯正歯科／周術期管理センター／リハビリテーション部）

【略歴】

2011年3月：
北海道大学歯学部　卒業
2011年4月：
横浜市立大学附属病院　歯科・口腔外科・矯正歯科　初期研修医
2013年4月：
横浜市立大学大学院医学研究科顎顔面口腔機能制御学　入学
2018年4月：
横浜市立大学附属病院　周術期管理センター　副センター長
2019年3月：
横浜市立大学大学院医学研究科顎顔面口腔機能制御学　卒業
2019年4月：
横浜市立大学附属病院　歯科・口腔外科・矯正歯科／周術期管理センター（専任）／　助教・副センター長
2020年4月：
横浜市立大学附属病院　歯科・口腔外科・矯正歯科／周術期管理センター（専任）／リハビリテーション部（兼任）　助教・副センター長

2016年度歯科医師臨床研修修了者アンケート調査によると，臨床研修を終了した歯科医師は10年後の働き方として，歯科診療所に勤務する半数以上が予想している。一方，歯科大学以外の大学附属病院や総合病院での勤務を予想する歯科医師は少数である。

医科歯科連携の重要性が昨今謳われるようになってきたが，医師や看護師などのメディカルスタッフとの連携を不得手とする歯科医師が多い。連携をうまく行うために必要な歯科医師のスキルはメディカルスタッフと双方向で対話できることである。また，医科的な全身評価の一部として口腔顎顔面領域の評価・アセスメントを行うことが歯科医師に求められ，歯科医師の医学知識の拡充が重要となってくる。今後，多数の基礎疾患を抱え，多剤内服している有病者に対し安全な歯科医療を提供するという社会的なニーズがさらに高まる中で，これからの若手の歯科医師は，医科とどのような連携が可能か，どのような新たな挑戦ができるかを考えなければならない時期に来ている。

今回，私は医科大学附属病院の中で2つの医科歯科連携に関する新規事業（周術期管理センターと摂食嚥下リハビリテーション部門）の立ち上げにかかわる機会を得た。医科大学附属病院や総合病院では，医師・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・社会福祉士・事務職などの専門性の高い多職種が勤務している。当院の周術期管理センターは，周術期にかかわるスタッフだけでなく入退院支援にかかわる医療スタッフとも密に連携していることが特徴である。一人の患者に対し周術期管理センタースタッフはそれぞれの専

©Japanese Society of Gerodontology

門職が互いに意思疎通を図り自己の専門領域を超えできることは積極的にカバーしながら協働するtransdiscipilinary teamとして動いている。現在の周術期管理センター運用までには時間を要したが，構想ができた当初から歯科医師が運営の鍵を握っていた。また，摂食嚥下においては当院では摂食嚥下チームとして院内チーム活動を行うのではなく，診療科に類似した摂食嚥下リハビリテーション部門として2020年4月に新規に立ち上げた。
本講演では，周術期管理センター，摂食嚥下リハビリテーション部門の設立に至るまでの経緯・実情を述べる。今後の進路を模索し決めていく際に，この内容が若手歯科医師の新たな挑戦の糸口となれば幸いである。

(Sun. Nov 8, 2020 3:20 PM - 3:30 PM A会場)

[MSY3-2] フリーランスとして働き、北海道の大地を駆ける！

○濱田 浩美[1]（1. 幌西歯科）

【略歴】
2003年3月：
日本歯科大学歯学部　卒業
2008年3月：
北海道大学大学院歯学研究科博士課程口腔医学専攻修了　博士（歯学）取得
2008年4月：
財団法人北海道医療団　帯広第一病院　歯科口腔外科　医長
2009年4月：
昭和大学　口腔リハビリテーション科　助教（員外）
2011年4月：
北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学講座口腔顎顔面外科学教室　医員
昭和大学スペシャルニーズ口腔医学講座口腔リハビリテーション医学部門　兼任講師
2014年4月：
北海道大学大学院歯学研究科　口腔健康科学講座　高齢者歯科学教室　医員
2018年4月：
北海道大学病院客員臨床医師
2019年10月：
幌西歯科（こうさいしか）院長

現在に至る

私は2018年に長年勤務した北大高齢者歯科教室を退局し、実家の歯科医院を継承、昨年10月に名目上は一歯科医院の院長になった。しかし、大学を辞めた今でも、ほかの病院やクリニックで非常勤として働いていると言えば不良院長と思われるかもしれない。私自身も、この状況になってから「今、何しているの？」という質問にはしどろもどろに答えざるを得なかった。それをこの場で返上したいと思う。

　私の働き方は、自分のクリニックで週3日ほど勤務（その他の日は自院は休診）し、週2日は病院歯科で高齢者を対象に、外来診療や嚥下造影検査などの嚥下機能評価、病棟へのミールラウンドを行い、週1回は他院から訪問診療に出向き嚥下内視鏡検査などを行い、大学病院でも診療し、月2回程度の歯科医師会の摂食嚥下外来、さらに月1回、摂食嚥下でお手伝いしているクリニックもあり、光栄なことに講演などもやらせていただいている。これはもうほぼ「フリーランス」である。なんだかかっこいい！と思うかもしれないが、上記の通り実際はかなり忙しい。でも、結構自由に、楽しくやらせてもらっている。

©Japanese Society of Gerodontology

摂食嚥下を専門としてやってきて本当に良かったと思っている。そうでなければ今の自分は存在しないだろう。一般的には摂食嚥下を専門とするとどうしても活躍の場が大学病院に限られるように感じられるかもしれないが、決してそんなことはないということだ。大学を出てわかったのだが、摂食嚥下障害をきちんと診察できる歯科医師は意外と少なく、必要としている患者は本当に多いのだ。

訪問診療に行くためには拠点となるクリニックが不可欠である。私のクリニックは札幌市の中心部なので、訪問範囲は札幌市全体をほぼカバーできるが、北海道は広い。その広い北海道をカバーするために、私自身が動き、いろいろな場所のクリニックから訪問診療に出向くことで解決しようと思い、今の状況になった。自院はいずれ、一般歯科治療を全くしないで摂食嚥下のみ診察するクリニックにしたいと思っている。しかし、私一人でやれる範囲には限界がある。よって、仲間が必要なのだ。その仲間たちが全国のさまざまなところに拠点を構えることで、あそこにはあの先生がいるから大丈夫という安心が患者に生まれればいいと考えている。

私自身もまだまだ道半ばであるが、摂食嚥下を専門としている歯科医師は、もっともっと羽ばたいていけると、私は確信している。（ COI開示なし）

(Sun. Nov 8, 2020 3:20 PM - 3:30 PM A会場)

[MSY3-3] 卒業−18年−現在−18年−還暦

○尾崎 由衛[1] （1. 歯科医院 丸尾崎）

【略歴】

2002年：
広島大学歯学部歯学科　卒業
2006年：
広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 展開医科学講座 修了
2006年：
九州歯科大学 摂食機能リハビリテーション学分野 助手
2007年：
九州歯科大学 摂食機能リハビリテーション学分野 助教
2011年：
済生会八幡総合病院 歯科医長
2016年：
済生会八幡総合病院 歯科部長
2017年：
国立病院機構 西別府病院
2019年：
歯科医院 丸尾崎 開院

現在、私は日本を代表する温泉地である大分県別府市で開業し、主に歯科診療に従事しています。歯学部を卒業してからは大学院に進み、その後大学歯学部に５年間勤務した後、急性期病院に６年、慢性期病院に２年勤務し現在に至っております。回り道をしたのか、近道をしたのかわかりませんが、今、過去を振り返ってみるといろいろな経験をさせて戴いて来ました。そして、その時々の経験があったからこそ、今があると実感しています。その貴重な経験を指導してくださった方々やその時々のタイミングでチャンスをくれた方々、一緒に頑張った方々との出会いなくして現在はありません。
今現在の目標は、地域の歯科医師として地域の人々の生活の歯車として機能することであり、また同時に、地域医療のチームの中での歯車として役割をしっかりと果たしていくことです。今までの経験とこれからの経験を組

©Japanese Society of Gerodontology

み合わせながら現在いろいろと挑戦中です。

(Sun. Nov 8, 2020 3:20 PM - 3:30 PM A会場)

[MSY3-CL] 総括

©Japanese Society of Gerodontology